

におい・かおり環境協会賞 四季を織りなす新たなかおり手法で都市緑地を再生

企画者 : 東京農業大学造園科学科
 評価点 : 日陰地であり意匠性の乏しい都市緑地に香り樹木を植栽することで、都会で暮らす人々に季節を身近な植物の芳香で感じる機会、香りによる癒しとくつろぎを提供するものであり、老朽化し、利用率の低い都市緑地の「かおり」を基軸にした再生を目指している。また、1月から12月まで年間を通して香りが楽しめる「かおりつる植物の混植パネル」など新たな緑化手法が提案されている。実際の再生工事や維持管理はデザインに携わった学生により行われる。

四季を織りなす新たなかおり手法で都市緑地を再生

企画概要

本企画は、世田谷区と東京農業大学の共同で行う、かおりの価値を用いた都市緑地の再生事業である。両大学の造園科学科学生4グループによるコンペの提案選出されたベース案に他のグループのよい点を取り入れ改良とした。再、施工その他の維持管理も両大学学生が行っていくものである。
 (4グループの各平面図は別途添付資料を参照)



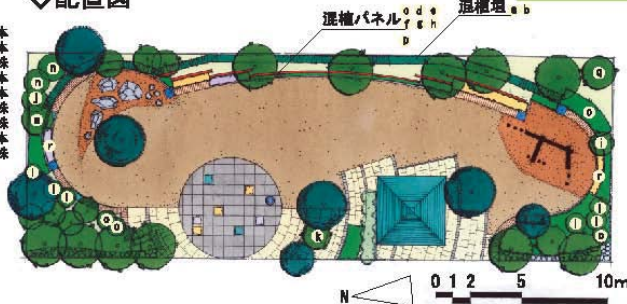
「かおり」を基軸に老朽化し、存在感と利用率の低い都市緑地の再生を目指す先駆的試みであり「公園再生時代」の今後の範とする。



使用する樹木一覧

m: ツバキ	56本	j: キンカン	1本
b: セイヨウバクテノキ	56本	k: ウメ	1本
o: カロイナジャスミン	19株	l: ジンチョウゲ	42株
d: ハゴロモジャスミン	19株	m: ナツミカン	1本
e: タイカズラ	26株	n: ユズ	2本
f: スイカズラ	26株	a: クチナシ	42株
g: モッコウバラ	8株	p: ヤブラン	30株
h: ナニワイバラ	8株	q: ウンナンオウバイ	1本
i: ミツマタ	1本	r: キンメツグ	20株

配置図



企画の目的

世田谷区上野原に位置する馬車公園前緑地は世田谷区景観の1つでもあるケヤキ広場に隣接し、面積400.3㎡と好立地でありながら、日陰地で、意匠性に乏しくトイレ以外の利用率は低く、周辺住民にとっても都市緑地として認知されていない実態にあります。当企画で香り樹木を植栽した空間へ改修することで都会で暮らす人々には少なくとも季節を身近な植物の芳香で感じる機会香りによる癒しとくつろぎを提供します。奥儀乗換陶製品の陶明器具と香炉を配し、夜間利用と時期を特定した人工資材による香りの演出も行います。

かおりのテーマ

「かおりつる植物の混植パネル」「かおり樹木の混植垣」によって1月から12月まで年間を通して香りが楽しめることを実現し、訪れる人々へ季節の香り変化を香りによって演出します。園内のコンテナガーデンは観音鉢外置、着脱、取り換えが容易なものとし、旬の植物の混植が可能となっています。訪れる人々へ植物の香りへの関心、感動、四季折々の香りの存在を体感してもらい、香りに対する見方、接し方に変化を促すことを目的とし、近隣住民をはじめ、この場所から広がる香りのムーブメントを生み出すようなアンテナスポットとなることを期待しています。

街づくりのテーマ

香り要素を取り込んだ都市緑地の再生をすることで、地域のコミュニケーションスペースとしての価値溢れを創ります。また、周辺建物・施設との一体感を持たせることにより、魅力を向上させます。園内に限定した遊び方ではなく、ヒノキの香りの利の道具を積極的に取り入れ、子ども達の創造性を尊重します。安心・安全で快適な空間として価値することを狙っています。

鳥瞰図



現地現況写真

